

# 古代寺院 法勝寺跡

6世紀、北近江で最大の勢力をもつようになる息長氏の古墳群から北西約2kmにあるのが、**白鳳時代**(7世紀後半)に創建され、息長氏の氏寺とされる法勝寺跡です。その範囲は、発掘の成果や地形、瓦の散布から二町(220m)四方におよぶと想定されています。屋根にふかれた軒丸瓦は4種類あり、白鳳時代から平安時代まで続いた寺院だったことがわかりました。また、国内ではここと大阪府善正寺跡しか出土していない百濟様式の瓦があります。息長氏の山津照神社古墳(能登瀬)からは、大陸との関わりが深い金銅製の冠が出土していることから、息長氏と大陸との関係は古墳時代にさかのぼり、氏寺造営にも外来系の軒瓦が用いられたようです。

白鳳時代、全国に爆発的に増えた寺院ですが、その多くが荒廃し、無住になったようで、天野川流域では、壬申の乱(672)直後に建てられた三大寺跡(枝折)も、わずか20~30年で法灯を消し、正恩寺跡(飯)や磯廢寺(磯)も奈良時代の早い時期に廃絶します。靈龜二年(716)、「寺院併合令」により同じ地域の寺院の統廃合が進められますが、このなかで法勝寺跡は、白鳳時代に創建され平安時代中期に修復されたことがわかる北近江で唯一の寺院です。



## 米原市の古代寺院

法勝寺跡、三大寺跡などの寺院が建立された天野川流域ですが、法勝寺跡を除くと確実に奈良時代以降に下る瓦が出土しておらず、奈良時代の早い時期に廃絶したとみられます。

**正恩寺跡（飯）** 天野川の河口部北岸に位置し、集落西方の八幡神社を中心に堂の西、堂の前、堂の東、北寺内、南寺内、地蔵など寺院関連地名が集中します。出土した瓦は「山田式」で、同じ瓦が出土している法勝寺跡や三大寺跡など天野川流域の寺院群が密接な関係であったことがうかがわれます。

**法泉寺跡（本郷）** 天野川と黒田川の合流点付近にあり、多量の白鳳時代の瓦が出土しました。軒瓦は、単弁軒丸瓦と四重弧文軒平瓦と、三大寺跡と同じ本薬師寺式の複弁八葉蓮華文軒丸瓦と偏行唐草文軒平瓦があります。寺院遺構は未確認で、丘陵部で瓦を焼いた窯だとともいわれます。

**磯廢寺（堂谷遺跡／磯）** かつて入江内湖に面していた磯山の東山麓に堂谷・堂ノ前などの地名があります。寺院など瓦葺屋根の大棟両端につけられる飾りの鷺尾や、三重弧文軒平瓦が採集されています。鷺尾は鰐の部分が中心で、コンパスを利用した正円形の珠文や平行線が施されています。

**不動谷瓦窯跡（番場）** 中山道の宿場番場の西にあり、変電所工事のときに多量の瓦が出土しました。軒平瓦1点のみがこされていて、内区は2本の弧線の間に斜め方向に平行線と小さな弧線を刻み、下外区は指の押さえにより凹凸を作る特異な文様です。瓦を焼いた窯跡とされています。

たんべんのきまるがわら し じゅう こ もんのきひら

かわらぶき



不動谷瓦窯跡出土瓦



法勝寺の礎石（高溝／湯坪神社）



天野川流域空撮（寿福滋氏撮影）



法泉寺遺跡出土瓦



法勝寺跡出土瓦

単弁八葉蓮華文軒丸瓦（山田式）

・四重弧文軒平瓦

複弁軒丸瓦（川原寺式）

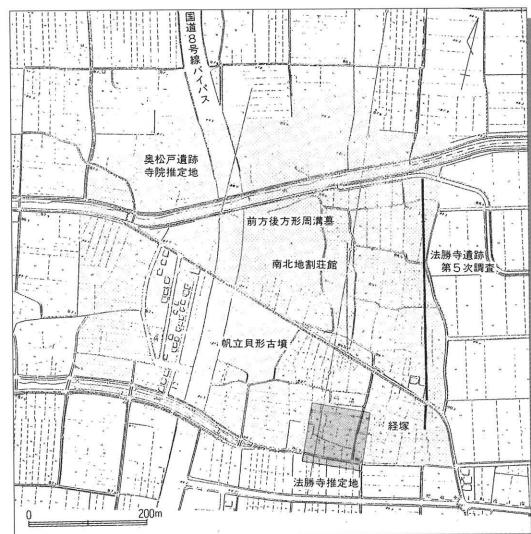
・三重弧文軒平瓦

単弁八葉蓮華文軒丸瓦（平安時代）

・偏行木葉文軒平瓦



法勝寺跡採集瓦片(柏済宏昭氏蔵)



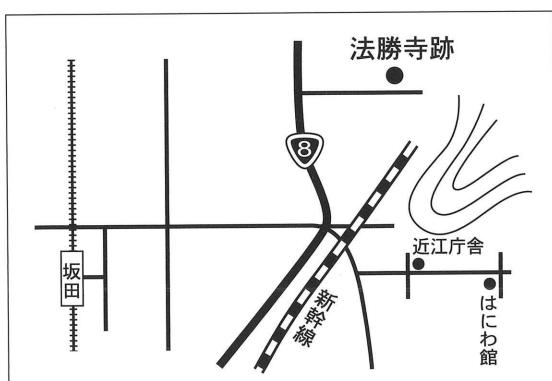
法勝寺遺跡群の広がり



正恩寺跡（飯／八幡神社）



堂谷遺跡出土鷺尾（磯崎清氏蔵）



## 法勝寺跡

■ 所在地 滋賀県米原市高溝

■ アクセス JR北陸線坂田駅下車。徒歩約30分。

## 米原市教育委員会

滋賀県米原市顔戸281-1 近江はにわ館内

TEL.0749-52-8025 FAX.0749-52-8177

平成22年度 埋蔵文化財活用事業